

農林水産部



糸満市喜屋武集落が内閣総理大臣賞を受賞 ～平成21年度農林水産祭むらづくり部門～

農林水産祭事業は、国民の農林水産業と食に対する認識を深めるとともに、農林水産業の技術改善と経営発展の意欲を高めるため、農林水産省と財団法人日本農林漁業振興会との共催により、昭和37年から実施されています。表彰は、農林水産祭参加行事の7部門（農産、園芸、畜産、蚕糸、林産、水産、むらづくり）の優秀者に対し、部門別に天皇杯、内閣総理大臣賞、日本農林漁業振興会会長賞が授与されます。

平成21年度（第48回）農林水産祭むらづくり部門において、糸満市喜屋武集落代表者・慶留間清栄自治会長が内閣総理大臣賞を受賞しました。

糸満市喜屋武集落は、先の大戦における激戦地であり、戦後の復興期より女性が「農」と「むら」を興してきた経緯が色濃く引き継がれていることに加え、強固な住民団結力を育み、地域ぐるみの自治会活動が中心となつて域内の産業振興、とりわけにんじんの産地形成を牽引してきました。

このような取組が評価され、この度の受賞に至りました。
糸満市喜屋武集落の取組について紹介します。



受賞した喜屋武自治会関係者

むらづくり組織の概要

喜屋武自治会は、総世帯数362戸、人口1254人で構成され、うち農家世帯が127戸、漁家世帯が17戸となっています。戦後の復興期より自治会が中心となり、農業関係団体、行政等と連携をとりつつ農業振興を図るとともに、集落独自の伝統芸能、伝統行事の継承に努めるなど、県内でもいち早くむらづくりに取り組んできました。

農産生産面の特徴

喜屋武集落の土壌は保水力に乏しい「鳥尻マージ」で、干ばつ被害が頻発するなど厳しい生産環境下にありましたが、「雨待ち農業」から「水あり農業」への転換を望む住民の熱意により、地下ダム整備、土地改良事業の実施が実現しました。これにより、さとうきび、にんじんの生産が向上するとともに、ゴーヤーの施設栽培など多様な農産生産が実現されています。



産が実現されています。

また、「美らキャロット」の名称でブランドが確立されたにんじんは、県出荷量の61%を占め、平成6年、7年に国の野菜指定産地、平成18年には県の拠点産地の認定を受けるなど、にんじんの供給産地として重要な役割を担っています。

生活・環境整備面の特徴

喜屋武地域では2月3日を「沖縄にんじんの日」とし、地域内外の幼稚園児を対象にしたにんじん収穫体験、学校給食へのにんじんの提供、女性たちによるにんじん料理の考案試食を行うなど、にんじんを核として様々な取組が行われています。



にんじん収穫体験



喜屋武集落の女性たち



ブランドマーク にんじん産地をアピールする看板

喜屋武集落のみなさん、
受賞おめでとうございます！



喜屋武ハーリー



チリタンチョウ

喜屋武集落では、「喜屋武ハーリー」、「喜屋武エイサー」、「チリタンチョウ」（キリシタ宗門改めのなごり）で、毎年12月25日に開催する新生児合同祝いなど、集落独自の伝統行事・伝統芸能が地域ぐるみで継承されています。

また、うみんちゅ（漁業者）や地域住民からなる「喜屋武の海を守る会」は、30年以上も海の環境を守る活動が続けています。